

草加川柳地区

こんなまちになったりいいな

地区別懇談会 の記録

第4回

日時 : 令和4年12月1日(木) 18:30~21:00

場所 : 川柳文化センター体育室

参加者数 : 23名

プログラム

1. 開催にあたって
2. 意見交換
ワーク① : プロジェクトの内容を確認しよう・具体化しよう
ワーク② : モデルプロジェクトの候補選定
3. 検討結果の発表
4. モデルプロジェクトの選定
5. 閉会・次回のご案内

当日の様子



当日の記録

- ワーク①②では、第3回地区別懇談会と同様に5班に分かれてグループワークを行いました。内容としては、ワーク①では第3回地区別懇談会の検討結果を元に各プロジェクト内容の具体化、ワーク②ではモデルプロジェクトの候補を各班1プロジェクト選定しました。
- また、各班で選定したモデルプロジェクトの候補のうち2プロジェクトを、草加川柳地区のモデルプロジェクトとして選定しました。

当日検討したプロジェクトの一覧と、モデルプロジェクトの候補、最終的に選ばれたモデルプロジェクトは以下の通りです。

※第4回に参加していただいた、各班員の皆様の氏名は関係者様以外に公表いたしません。

各班で検討したプロジェクト	候補	モデルプロジェクト
<u>A・B混合班</u>		
川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり	●	★
あおはる食堂<拡大版>		
<u>C班</u>		
四季の魅力を感じられるそうか公園づくり	●	
地域の自然と触れ合える空間・環境づくり		
自然と触れ合えるアウトドア体験会の開催		
<u>D班</u>		
柿木の町会会館や民家を活用した居場所づくり		
子どもが地域を知るための野菜づくりと収穫祭の体験		
柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR	●	
<u>E班</u>		
そうか公園を地域のシンボルに	●	★
地域で情報交換やコラボができる場づくり		
地域で連携して自転車のマナーの向上		

次頁以降に、ワーク①の検討を踏まえて整理した各プロジェクトを掲載します。

ワーク①の検討を踏まえて整理した各プロジェクト

テーマ：居場所・つながり・支えあい

A・B班で検討！

川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり

目的

- ・地域の子供達の育ちと「ふるさと」と呼べる様なまちづくりのために、子ども（主に小学生）の居場所と、親子が交流し相談できる場をつくります。
- ・地域に子どもの遊び場や親子の居場所となる場所を増やすために、川柳文化センターを活用し公民館と児童館両方の機能を持つような場所にしていきます。

プロジェクトの内容

STEP 1

活動内容の明確化・体制づくり

- ・事業の方針や目的・実施体制の検討を行う。
- ・運営に関わってくれる人の整理と呼びかけ方法を検討する。

アイデア！

親しみやすい活動名称も検討できるとよさそう！

必要なモノ・コト

高年者については、事業計画を踏まえて各分野の名人をピックアップする。

STEP 2

活動スペースの検討・関係機関（教育委員会）との調整

- ・（STEP1を踏まえて）いつ、どこを使いたいかを整理（室外を含む）する。
- ・現状の利用ルールを超えた利用を想定する場合は、センター（または教育委員会）との調整が必要となるため、検討・調整を行う。

必要なモノ・コト

現地を実際に見学する

運営に関わってくれる人探し（発掘）・活動や協力に関する呼びかけや発信

- ・具体的に名前をあげられる団体・個人に対して、手分けをして声かけや相談を行う。
- ・広く周知するための発信方法を検討する。

アイデア！

発信では、市の関係各課の情報発信の媒体・方法なども参考にする。

STEP 3

企画の具体化と試行

- ・単発の行事（屋内・屋外）を企画・実施する。
- ・参加者の感想を集める。
- ・試行結果の振り返りと課題の整理を行う。

アイデア！

あおはる食堂と同時開催の形で、企画イベントを試行する。

STEP 4

居場所の運営・常設化

- ・常設の居場所活動を行う（例：毎週●曜日の●時～●時まで●●室にて、など）。
- ・人材の育成を行う（理念の継承、倫理や接遇、緊急時対応などの統一したルールの共有）
- ・気になる子どもが来場した際の体制やしぐみ（学校や専門機関との連携）を徐々に向上させていく。

あおはる食堂＜拡大版＞

目的

- ・子育て中の保護者の親の育児の負担軽減とすべてのひとにとって息抜きができる場をつくります。
- ・困難を抱えた親子などが心を落ち着けて過ごせる居場所をつくることを通して、子どもの育ちを支えることを目指します。

プロジェクトの内容

STEP 1

必要なモノ・コト

活動の理念に対して、民間の活動としてどこまでできるかを見極める。

拡大する事業の明確化と課題の整理

- ・あおはる食堂の拡大の内容として、同日開催する「イベント」の充実と、困難を抱えた親子などが、心から落ち着いて過ごせる「居場所」も運営するイメージを具体化する。
- ・「居場所」の運営については事例研究などを行い、実現へ向けた課題を洗い出す。

STEP 2

必要なモノ・コト

安定的・継続的な運営体制をつくる。

事業計画の作成・体制づくり

- ・「イベント」については、「川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり」プロジェクトとの連携により充実を図ることを基本とする。
- ・「居場所」の運営に関わってくれる人を整理し、呼びかける。資金集めや法人化の方法、関係機関との連携体制の構築を含む「居場所」開設の実務については、関係課の協力も依頼する。

STEP 3

アイデア！

専門性を要する検討事項については、市や先行事例の情報も参考にする。

実施場所の検討、運営に関わってくれる人探し・呼びかけ

- ・「イベント」は、「子どもやママの交流の場づくり」のメンバーと連携し行う。
- ・「居場所」の実施場所として、空き家の活用を視野に入れて確保を図る。具体的に名前をあげられる所有者（候補）に対して、手分けをして相談や声かけを行う。・空き家バンクの活用など、関係課の協力も依頼する。

STEP 4

必要なモノ・コト

一般的には情報を公開しない「居場所」の情報を、必要とする人に届けるには市との連携も欠かせない。

あおはる食堂＜拡大版＞の運営とスタッフの力量の向上

- ・「イベント」や食堂開催中に気になる参加者がいた場合は相談に乗り、必要に応じて「居場所」への案内を検討する。
- ・「居場所」の運営は日々の振り返りを行い、その後の活動とスタッフの力量の向上へつなげていくことを重視する。そのために、スタッフ間の情報共有と人材育成には力を入れる。

柿木の町会会館や民家を活用した居場所づくり

目的

- ・高年者が集まっておしゃべりやお茶ができる身近な場所をつくり、家に閉じこもりがちな高年者の交流の機会を増やし、元気なまちにします。
- ・高年者に限らず、子ども、子育て世帯、若い人が集まる場所が少ないので、いずれは世代を問わず集まれる場所にしていきます。

プロジェクトの内容

💡STEP 1

中心メンバー・協力者の募集

- ・地区懇メンバーを中心に、町会関係者に実行メンバーを募集する。
- ・実行メンバー以外にも、民家の庭先などの場所を提供してくれる人を募集する。
- ・居場所の世話役や管理者は、ボランティアを募集する。

💡STEP 2

交流の場の企画

- ・ちょっとしたものを販売するなどして、人が集まるきっかけをつくる。
- ・例えば、農家や各家庭で育てた野菜の100円マルシェを開いたり、おしんこをつくりおすそ分けするイベントを行うなど。
- ・例えば、買い物難民の高年者向けに、移動販売車をお試しで呼んでみるなども検討する。

必要なモノ・コト

民家を活用することも！

活動場所の検討

- ・柿木町内には、公民館の他に町会の区会館が3か所あり、使い勝手が良い。
- ・特に、女体神社入口の第四区会館は集まりやすく、最初の活動場所として第一候補とする。

💡STEP 3

居場所づくり

- ・最初は月または週に1回、移動販売などで人を集め、お買い物ついでにお茶を飲みながら井戸端会議ができる場を設け、定着させていく。
- ・居場所が定着していけば、利用者にお茶菓子を持ち寄ってお茶をしてもらおう。最初は無料でも、いずれワンコイン払ってでも行きたい場所に工夫していく。

💡STEP 4

より身近な場所への展開

- ・高年者の居場所づくりからスタートし、いずれは子どもや親御さんの情報交換の場所にしたい。
- ・気楽に同世代で集まる場を曜日やブースを分ける工夫をし、多世代交流につなげていく。
- ・古民家を上手に再生したお店もあるが、維持コストがかかるため、古民家にはこだわらない。

子どもが地域を知るための野菜づくりと収穫祭の体験

目的

- ・地域の子どもの土に触れる機会が減っている。単なる収穫ではなく、芽が出る場所から作物の成長過程を体験することで食物の大切さを知ってほしい。
- ・地域には豊穡を願うお祭りがあり、秋には収穫を感謝するお祭りがある。農業体験と収穫祭を同時に経験し、一連のお祭りの意味も伝えたい。

プロジェクトの内容

💡STEP 1

協力者の募集

- ・柿木町内で、休耕地や広い農地の一部を貸していただける農家を募集する。
- ・作付けから収穫までの間には農家の協力が必要なため、知り合いの農家に指導者としての協力を呼びかける。

必要なモノ・コト
貸し農地の提供者、野菜づくりの指導者の協力

💡STEP 2

体験内容の企画

- ・農業を教えられる人が年々減少しており、稲作は難しい。
- ・サツマイモやジャガイモ、カボチャなど、野菜づくりの体験とし、貸し農園・シェア畑のように、畑を提供して参加者に育ててもらう。
- ・「作育」と堅苦しく捉えず、だんだんと農業の楽しさを体験する機会にしてい

💡STEP 3

参加者の募集

- ・参加者は青柳と柿木町の地域の親子とする。「いっしょにジャガイモ作りませんか！」のようなチラシを配付または回覧し募集する。
- ・いつも家庭で野菜を育てている家庭でも、最後はお祭りに野菜を持ち寄って、一緒に収穫を楽しめるイベントとして参加を促す。

野菜づくり体験

- ・借りた農地を耕し、例えばジャガイモの種芋を植えるところから体験する。
- ・収穫までの農作業は、農家の方に指導をしていただく。

必要なモノ・コト
収穫の時期とお祭りのタイミングが難しい

収穫祭での交流会

- ・はじめは柿木公民館のお祭りとはタイアップして、公民館で調理をして交流会
- ・いずれは「お日待ち」などお祭りと連携し、地域交流の場となる芋煮会イベントにしてい

💡STEP 4

情報発信・PR

- ・お祭りでの交流の様子はYouTube 配信し、柿木以外の地域や若い人にPRする。

柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR

目的

- ・柿木には 1500 年来の歴史があり、お祭り、里神楽、寺社仏閣など貴重な資源があるが、PRが足りない。
- ・柿木の貴重な歴史資源をPRして、地域の子どもや大人が寺社仏閣の癒しの空間に触れる機会を設け、にぎわいのある地域づくりに活かします。

プロジェクトの内容

必要なモノ・コト

歴史の語り部など協力者の確保

STEP 1

協力者の募集

- ・お寺や神社、地域の歴史に詳しい方や観光ボランティア等の協力を得て、柿木町の歴史資源の価値を再確認する。例えば十王堂や東漸院の仏像の価値が柿木町内でも知られていない。
- ・若い世代への SNS 発信には、高校生に協力を呼びかける。

PR戦略づくり

- ・柿木の歴史本を参考に、歴史や観光の専門家を交えて、何をメインに柿木をPRするかの戦略を検討する。(女体神社、東漸院、正福寺跡の仏像、鎌倉時代からの伝承や、豊田姓の由来など)
- ・例えばパワースポット、願掛けスポットを、エピソードと紐づけてPRする。

STEP 2

子どもたちによる「イラストマップ」づくり

- ・地域の歴史を継承していくため、高年者だけでなく、子どもも楽しめるイベントを開催する。
- ・子どもたちに歴史スポットのイラストを描いてもらい、柿木町の「まち歩きマップ」をつくる。

STEP 3

親子で歴史を学ぶ「まち歩き」の開催

- ・イラストマップを手に、親子で参加できる「まち歩き」イベントを開催する。
- ・まち歩きには歴史資源のガイド役として、観光ボランティアの方にも協力いただく。

STEP 4

必要なモノ・コト

SNS など情報発信が得意な若い世代の協力者の確保

SNS での情報発信・PR

- ・「イラストマップづくり」や「まち歩きイベント」を若い世代向けに発信しPRするため、草加高校や草加東高校の学生に協力をお願いする。
- ・「まち歩きイベント」をライブ配信するなど、Youtube 動画やインスタなどの SNS で、若い世代向けにPRする。

四季の魅力を感じられるそうか公園づくり

目的

- ・四季折々の植物を知り、散歩しながら季節を感じることでできるそうか公園にしていきます。
- ・行政によるそうか公園のリニューアルに合わせ、地域住民からの意見を集め、官民連携の機会とします。
- ・市の主要な公共空間であるそうか公園を観光資源として生かし、来街者を増やしていきます。

プロジェクトの内容

STEP 1

活動の中心メンバー集め

- ・継続的に活動を行っていく必要があるため、活動の趣旨をよく理解し賛同するメンバーを、円卓会議や既存の組織を通じて少数精鋭で集める。

STEP 2

必要なモノ・コト

材料や工具の調達（助成活用）

四季の見どころ掲示板・そうか公園目安箱の設置

- ・来園者に園内の季節の見どころや場所、イベントの開催予定などを教えられる掲示板を作成し、入口に設置する。掲示板は移動や更新がし易いように、手書きなどの仕様で愛着の持てるデザインにする。
- ・来園者からの意見を吸い上げることでできる目安箱を設置することで、地域一体となってより良いそうか公園にしていく。

四季の植物のネームプレートづくり

- ・園内の木々や草花、水草などの解説を記したネームプレートを作成し、掲示する。
- ・作成したネームプレートを活用して、地域の生態系を知るイベントなど、他のプロジェクトとの連携を図る。

必要なモノ・コト

デザインスキルに長けた人の協力
印刷費の調達（助成活用）

STEP 3

四季のそうか公園パンフレットの作成

- ・園内の植物の一覧表や位置、植物の解説などが記されたそうか公園のパンフレットを作成する。
- ・行政目線とは違い、住民目線で感じる四季の植物の魅力を伝えることにフォーカスすることで、素敵なパンフレットにしていく。植物が日々変化していくなかで、パンフレットも更新できると良い。
- ・バードウォッチングが人気の公園であるため、その要素も盛り込みたい。

アイデア！

駐車場周辺には活用できそうな空間がありそう！

STEP 4

地域住民による植樹ゾーンの設置・管理

- ・園内の空地を活用して、地域住民が植樹や植物の手入れをすることができるゾーンを設ける。
- ・学校のイベントとして記念樹を植樹するなど、地域連携の視点を持って植樹方法を検討する。

四季にまつわるイベントの開催

- ・園内に多く植わっている桜などを観光資源として活用するためにライトアップイベントを企画する。
- ・市内の企業と協賛することで収益化を図り、備品のレンタル費用等に充てる。

地域の自然と触れ合える空間・環境づくり

目的

- ・取組を通じて多世代交流や地域振興を図り、葛西用水・八条用水という固有の自然環境を持つ草加川柳地区ならではのライフスタイルを育みます。
- ・子どもを中心とした幅広い世代が、ありのままの自然に触れ合い楽しめる環境を創出します。
- ・葛西用水・八条用水の環境を活かせるように、各団体が連携し、各々の役割を明確化します。

プロジェクトの内容

💡STEP 1

町会を中心とした活動メンバー集め

- ・プランターの手配や助成の手続き、管理団体との協議などを担う活動メンバーを、町会を中心としたネットワークの中から集める。まずは活動趣旨に賛同する仲間を増やしていき、将来的には各種の手続きなどを円滑に行うための組織化を目指す。

必要なモノ・コト

専門家からの助言
管理団体との調整

💡STEP 2

活動場所の選定

- ・現地調査により用水沿いや用水内で雑草が生い茂っている場所や荒れた場所などを把握する。
- ・田植えの時期は水嵩が増す。用水内で水辺に近づくことが可能な場所は護岸工事が完了している場所に限られるため、専門的な知識を持つ方の意見も踏まえて、活動場所を選定する。

💡STEP 3

八条用水沿い：プランター設置運動の拡大

- ・市や県の助成を活用して種や苗を準備し、用水沿いの歩道にプランターを設置する。
- ・設置されたプランターの手入れについては、用水の周辺に住む住民の方に協力を依頼する。
- ・植物の手入れは毎日行う必要があるため、このような活動を個人の趣味として楽しんでもらえる人を発掘することが最も重要である。

必要なモノ・コト

住民への協力依頼
活動資材の調達(助成活用)

葛西用水内：草刈り・清掃活動による親水空間の整備

- ・用水の管理者と協議し、活動の許可を得る。
- ・住民が水辺近くまで降りてきて、自然と触れ合うことができるように、用水内の除草や清掃活動を行う。活動に際しては、円卓会議や町会等のネットワークを通じて協力者を募って実施する。
- ・年間を通じて用水内の環境を維持することは困難なため、水遊びの需要が高まる夏など、活動時期を絞ることで継続的に実施する。

💡STEP 4

用水沿いの新たな休憩所づくり

- ・用水沿いを散歩した際に休憩できるような空間を新たに整備する。

自然と触れ合うアウトドア体験会の開催

目的

- ・子どもや子育て世代を中心とした地域内での多世代交流を図り、住民同士の新たな繋がりを生み出します。
- ・地域の自然環境を知り、尊さを実感することで、地域のみどりを守っていくマインドを育てていきます。
- ・自然との触れ合いを通じて、活動的でたくましい子どもを地域一丸となって育てていきます。

プロジェクトの内容

STEP 1

子育て世代中心による活動体制の発足

- ・円卓会議・町会のネットワークを通じて、子育て世代が中心となってイベントの内容を企画する。固定化した活動組織を作るのではなく、サークルのようなゆるい集まりから活動を進めていく。
- ・年1回の開催など、定例行事とすることで活動の定着を図る。

STEP 2

必要なモノ・コト
専門家の協力・連携

イベントの企画・情報発信

- ・参加者が多く集まるような『魅力』や『インセンティブ』を考えて、イベント内容を企画する。
- ・イベントの内容に応じて、学識や釣りの達人など、各分野における専門家に協力を依頼する。
- ・町会の回覧やPTAへの協力依頼により、子ども・子育て世代をメインターゲットにイベントの情報発信を行う。

企画案①：葛西用水・八条用水を活用した釣り大会

- ・地区固有の貴重な自然である葛西用水・八条用水を活用することができる。
- ・地区には釣りを日頃の趣味としている方も多く、協力者を集めることが容易である。
- ・別プロジェクトによる親水空間の整備を生かした企画にすることができる。

企画案②：そうか公園を活用した植物・鳥・昆虫の生態系観察会

- ・そうか公園には多様な生態系が存在しており、日ごろからバードウォッチングや撮影を楽しむ人や、どんぐり拾いをする子どもたちが多くいる。そういった豊かな自然環境の尊さを、多くの子どもたちに知ってもらえる機会にしたい。
- ・イベントでは大学教授などの専門家に協力を依頼し、生態系に関するレクチャーを行ってほしい。
- ・別プロジェクトによる植物のネームプレートづくりと連携することで、より魅力的なイベントを企画する。

企画案③：遊休農地を活用した農業体験会

- ・仕事として使われている農地を活用させてもらうことはハードルが高く、地区内に遊休農地は多くないが、季節によっては一時的に使用していない期間などがあるため、その期間に活用させてもらうことを検討する。

そうか公園を地域のシンボルに！

目的

- ・子どもでにぎわう、お年寄りも過ごしやすい地域にしたい。
- ・いつも何かしらの活動やイベントが行われている、にぎわいのある公園にしたい。キャッチフレーズは「地域の住民がいつでも集まるシンボルパーク」。

プロジェクトの内容

💡STEP 1

取組内容の明確化・体制づくり

- ・円卓会議を通じて活動の中心メンバーと賛同者で、取組内容について検討する。
- ・施設管理者へのヒアリング等により、公園利用のルールを確認する。
- ・運営に関わってもらいたい個人や団体への呼びかけ方法等を検討し、声掛けする。

アイデア！

獨協大学のボランティアサークルなど、子ども向けのイベントを実施している団体等と連携できると良いかも！

💡STEP 2

子ども達からの「遊びたいこと」の聞き出し

- ・子ども達のニーズを確認するために、「遊びたいこと」について自由な意見を聞き出す。

例) 子どもを対象にした小さなイベントを実施し、イベントの中で聞き取り

💡STEP 3

「遊びたいこと」の実現に向けた企画・調整・実施

- ・「遊びたいこと」の実現に向け、施設管理者との調整を踏まえ、町会や関係団体が協力して企画・実施する。まずは小さなイベントから実施する。

💡STEP 4

子ども達がのびのびと遊べる環境づくり

- ・「(仮称)フリーパーク協議会」を立ち上げて、施設利用者と施設管理者をつなぐ窓口的な機能と、施設利用の際の安全面を担保する。そうか公園を利用する際のノウハウを集積し、公園を利用するハードルを下げることで、手続きや利用の際の施設管理者との調整が円滑になり、公園が利用しやすくなる。

アイデア！

既存の媒体を使えると良いかも！

そうか公園でのイベント情報や活動情報の周知

- ・そうか公園で開催されるイベントや各団体の活動情報を一元化して周知する方法について検討し、運用する。 例) HP、SNS 等

地域で情報交換やコラボができる場づくり

目的

- 同じ地域で活動している個人や団体同士でも、お互いのことをあまり知らないことが多いため、知り合う・つながり合う場を作ります。
- また、各団体等が抱えている課題を共有し、課題解決につなげることで、団体等の活動の継続性を高めます。
- ゆくゆくは、団体同士のコラボレーションによる活動を生み出します。

プロジェクトの内容

💡STEP 1

「(仮称) 地域活性化サロン」の企画

- まずは町会の役員や中心メンバーとなり、賛同者と一緒に場づくりのための企画ミーティングを行います。
- その中で、若い世代を始め、多世代が参加しやすい開催方法・時間帯・雰囲気作りなどを検討します。例) 自由に出入りできる場とする。カフェ等のお店を会場にする。等

アイデア

ミーティングには、町会館など既存の施設が使えるかも！

アイデア

飲食を伴う場合は、参加費制にすることも検討しましょう！

💡STEP 2

地域への周知

- 地区内で活動する個人や団体等への周知方法を検討する。
例) チラシ作成、専用LINEの開設
- 若い世代を始め、多世代の参加を促せるような内容で周知する。
例) 「活動上の困りごとがあればお茶でも飲みながら話ませんか？」といった内容での周知等

アイデア

大学生や町会など、周知に慣れている団体等にお問い合わせできると良いかも！

💡STEP 3

「(仮称) 地域活性化サロン」の開催

- 集まった個人や団体で、活動状況や活動上の課題等に関する自由な情報交換から開始する。
- また、状況に応じてテーマを決めて意見交換等を実施する。

💡STEP 4

「(仮称) 地域活性化サロン」の定例化

- 口コミや声掛け等により参加者を募りながら、場を定例化していく。
- ある時は参加者がテーマを投げかけ、興味関心及び専門知識等がある個人や団体がそこへ参加する等、自由な形で発展していく。

地域で連携して自転車マナーの向上

目的

- ・草加市は交通事故が多い自治体であるため、子どもを対象に自転車事故防止のための取組を実施することで、将来的に安全性の高い地域にしていきます。
- ・まずは草加川柳地区が先進地区となり、市内に取組を拡大していきます。

プロジェクトの内容

STEP 1

自転車マナー向上のための活動内容の明確化

- ・中心メンバーと賛同者で、活動の方針や実施体制等について検討する。
例)「自転車事故ゼロ地区」というスローガンを掲げ、強化期間を決めて活動を展開する。
- ・協力を依頼したい団体等の整理と、声掛け方法について検討する。

アイデア

市の所管課や警察など、関係する組織や団体との連携も検討しましょう！

STEP 2

自転車マナー向上のためのイベント等の実施

- ・地区内で開催される子どもが集まるイベントや活動等と同時開催する形で、自転車マナーを促進するイベント等を実施する。イベントは、「人の命を大切に」「体験しながら学べる」「目で見て実感できる」等の視点を踏まえた内容とする。
例) 自転車事故の被害者と加害者の苦悩がイメージできる映像の上映
ゲーム形式で自転車マナーが学べる体験企画の実施 等

必要なモノ・コト

交通安全協会など、関係する団体等に協力してもらえると良いかも！

STEP 3

自転車マナー週間の実施

- ・STEP 2と並行して、町会で実施している下校見守り隊を参考に、自転車マナー週間など期間を決めて一部のエリアで実施する。
- ・また、同期間には、自転車事故防止を意識啓発する横断幕等も掲示する。

必要なモノ・コト

既存のデータ等は警察が把握しているかも！

STEP 4

危険個所の周知

- ・STEP 2・3と並行して、既存のデータやまち歩き等による情報収集を踏まえ、地区内で自転車事故が多い場所や危険な箇所を見える化・地図化し、住民に周知する。